2024年4月実績概要（メモ）

（2024. 5. 23）

春の定修の最中、エチレンの減産と相まって、誘導品類の生産も一様に前年割れとなる。

1. 生産動向

イ) エチレン 393,900トン

前月比 ▲ 2.9% (▲11,800トン)
前年同月比 ▲ 12.3% (▲55,000トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2%	—
定修要因等	▲ 5.2%	▲ 9.7%
能力増減	—	—
稼働率変動	+ 5.5%	▲ 2.6%
生産増減率	▲ 2.9%	▲ 12.3%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月78.6%* → 当月82.4% ← 前年同月84.5%
定修プラント：前月2社2プラント → 当月2社2プラント ← 前年同月1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数の減少に対し、定修規模差等からLDPE、EO、AN、SBR、BRなどの10品目がプラス。PS、SM、塩ビ樹脂、EGなどの7品目はマイナスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因から、LDPE、HDPE、SM、塩ビ樹脂、EO、EG、SBR、トルエン、キシレンなどの15品目がマイナス。PP、BRの2品目のみがプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数の減少がある中、定修規模の差や稼働率要因からLDPE、HDPE、PPでプラスとなった。PSは主に稼働率要因からマイナスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因等からLDPE、HDPE、PSはマイナス。PPのみは微増となった。

ロ) 国内出荷

消費マインドは、改善の動きが続くものの暮らし向きや耐久消費財の買い替え態度の面では前月より低下がみられている。また、国内の生産活動は、4月は、生産用機械、輸送機械で上昇予測がだされているほか、生産マインドとしては強気トレンドが優勢であるが、前月に対してはその傾向は若干の弱さが見られている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、生産量の増加を受け、LDPE、PPはプラス。PSはマイナスとなった。

前年比は、LDPE、PP、PSともに前年を下回ることとなった。

分野別の出荷動向では、前年比では、フィルム等の包材分野は、LDPE、HDPE、PSは引き続きマイナスとなっているが、PPは僅かながらプラスに転じた。包材以外の分野では、HDPEは射出成形分野に加えてパイプ分野がプラスとなった。PPは、射出成形分野が4ヵ月連続してマイナス。PSは包材以外の電機・工業分野、雑貨・産業用分野、FS分野でもマイナスとなった。

ハ) 輸 出

原油価格の上昇影響もあり、域内の市況も上昇気配が見られたが、輸出玉も限られており、前月比は、LDPE、HDPE、PSでマイナスとなった。前年比では、LDPE、PPはプラス。HDPE、PSはマイナスとなった。

ニ) 在 庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPE、PSで減少し、PPのみが増加した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPE、PP、PSともに低下した。在庫水準としてはLDPE、HDPE、PP、PSとも依然、高め水準にある。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		3月末	4月末
LDPE	▲ 8,300	4.0	3.7
HDPE	▲ 7,200	3.7	3.5
P P	+ 3,300	3.8	3.3
P S	▲ 800	2.2	2.0

前月からの修正を*で付記
以上